



札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	クリティカルケア看護領域に従事する看護師のキャリア発達に関する実態調査 -認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格および学位取得に必要と考える事項および情報源-
Author(s)	皆川, ゆり子;神田, 直樹;門間, 正子;中井, 夏子;田口, 裕紀子;城丸, 瑞恵
Citation	札幌保健科学雑誌,第3号:51-58
Issue Date	2014年3月
DOI	10.15114/sjhs.3.51
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6075
Type	Technical Report
Additional Information	
File Information	n2186621X351.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

研究報告

クリティカルケア看護領域に従事する看護師のキャリア発達に関する実態調査 —認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格および学位取得に必要と考える事項および情報源—

皆川ゆり子¹⁾、神田直樹²⁾、門間正子³⁾、中井夏子³⁾、田口裕紀子⁴⁾、城丸瑞恵³⁾

¹⁾ 北海道立子ども総合医療・療育センター

²⁾ 札幌医科大学附属病院集中治療部門看護室

³⁾ 札幌医科大学保健医療学部看護学科

⁴⁾ 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター看護室

A都道府県におけるクリティカルケア看護領域に従事する臨床看護師495人を対象に、認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格および学位取得に必要と考える事項及び情報源について調査した。認定看護師では、約6割が役割を知っており、約4割が関心があると回答していた。それに対し、専門看護師、修士・博士に対してはいずれも認定看護師に比べて低かった。資格および学位取得に必要と考える事項は「経済的余裕」や「病院の休暇取得のサポート」が必要で、情報源は「職場の有資格者」、「インターネット」と回答していた。A都道府県における認定看護師数は専門看護師や修士・博士よりも多く、認定看護師の役割認知や関心につながっていたと考えられる。以上より、資格や学位に関する役割認知を高める働きかけをしていくこと、通学中の経済面や時間を保証し、学習しやすい環境や有益な情報を提供することが重要であるとの示唆を得た。

キーワード：クリティカルケア看護、キャリア発達支援、認定看護師、専門看護師、修士・博士

Fact-finding Survey on Career Development of Critical Care Nurses: Their Awareness of Higher Professional and Academic Qualifications, Concerns for Pursuing Higher Qualification and Source of Information

Yuriko MINAGAWA¹⁾, Naoki KANDA²⁾, Masako MOMMA³⁾,
Natsuko NAKAI³⁾, Yukiko TAGUCHI⁴⁾, Mizue SHIROMARU³⁾

¹⁾ Hokkaido Medical Center for Child Health and Rehabilitation

²⁾ Nurse Stations of Intensive Care Unit, Sapporo Medical University Hospital

³⁾ Nursing Department, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

⁴⁾ Emergency and Critical Care Medical Center, Sapporo Medical University Hospital

495 clinical nurses working in the critical care areas of one of the 47 prefectures in Japan were asked to answer (1) whether they were aware of higher professional/academic qualifications such as certified nurse specialist (CNS), nurse specialist (NS), and Master's and PhD programs, (2) what issues they were concerned with most if they wanted to study for a higher qualification and (3) how they obtained information about the qualifications/courses. 60% were aware of the role of CNS, and 40% showed interest. The recognition level of SN, Master's and PhD was lower. The respondents cited financial resources and work's understanding of their request for days-off for schooling as the issues that would affect their inclination for further study. They obtained information mainly from colleagues having these qualifications and the internet. CNS was the most widely known qualification and attracted the highest interest because, the authors suggest, there are more CNS than NS, or Master's/PhD holders in the prefecture. The survey results highlighted the need for raising the awareness of higher qualifications, and the importance of supportive and encouraging initiatives such as financial support, guaranteed days-off for schooling and the provision of useful information.

Key words : Critical care nursing, Career development support, Certified nurse specialist, Nurse specialist, Master's/PhD

Sapporo J. Health Sci. 3:51-58(2014)

I. はじめに

看護師を取り巻く環境は年々変化しており、日本看護協会は、高度化・専門化が進む医療現場における看護ケアの広がりや看護の質の向上を目的に資格認定制度を発足し、専門看護師、認定看護師、認定看護管理者が誕生した。さらに、大学院における看護学教育は平成8年度に修士課程8校、博士課程5校だったものが平成22年度は修士課程127校、博士課程61校と急激に増加している¹⁾。このように、臨床看護師がスペシャリストや新たな学位取得を目指しキャリアを向上するための選択の幅はさらなる広がりを見せている。なかでもクリティカルケア看護領域は、急性・重症患者看護専門看護師のみならず、集中ケア、救急看護、小児救急、新生児集中ケア、手術看護など多くの認定看護師が関連しており、進学による新たな学位取得に加え目指す選択の幅が広いといえる。これにより、将来のキャリアデザインとしてスペシャリストや学位取得を志望する看護師が多い領域と考えられる。また、クリティカルケア看護領域は関連する学会やセミナーなども多く開催されており、キャリア発達の一環として学習ニーズの高い看護師が存在していると考えられる。

しかし、先行研究ではクリティカルケア看護領域の看護の特殊性から、この領域に従事する看護師がバーンアウトや離職しやすい状況があることを指摘している。ICUの看護師は、「対応の仕方などのミスで患者に悪影響を起こす」や、「急変時に即座に対応しなければならない場面が多い」と表現されるように、精神的緊張、看護師としての使命感、責任によりストレスが助長されている^{2) 3)} ことが明らかになっている。また、重症患者が多いことから、看護師は懸命に看護を行っても患者の死の場面に遭遇することが多く^{3) 4)} 無力感を抱きやすい⁵⁾。さらに、患者は生命の危機にさらされ疾患や薬剤により意識レベルが低下していることがほとんどであるため、他の看護領域では容易に得られるであろう患者からの反応が得られにくいことから、看護師自身のケアの不全感や情緒的消耗感を感じやすい²⁾。このように、クリティカルケア看護領域に従事する看護師のバーンアウトや離職は起りやすく、職務の継続は容易ではない。したがって、クリティカルケア看護領域という特殊な環境のなかにあっても、そこに従事する看護師がキャリアアップを図っていけるよう、実態調査を行い必要なキャリアサポートを分析する必要があると考える。

以上より、クリティカルケア看護領域における認定、専門看護師および修士・博士に対する臨床看護師の認識と、キャリア発達に必要と考える事項について実態把握することは、臨床の場におけるキャリア発達のサポート体制構築の基礎資料となり得ると考えられる。また、これによりスペシャリストや学位取得を目指す看護職者の充実したキャリア発達のサポートが可能となり、将来的には看護師の満

足度、患者の満足度の向上に寄与できるものと考え本研究を行った。

II. 研究目的

クリティカルケア看護領域看護師の認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と、資格および学位取得に必要なと考える事項および情報源を明らかにし、キャリア発達に必要なサポートについて検討することを目的とする。

III. 本研究における用語の定義

キャリアデザイン：仕事や人生の出来事を含む生き方を熟慮して設定したゴールを達成するための計画⁶⁾。

キャリア発達：キャリアの選択と決定に自己責任をもつ自立した看護師個人が、ライフステージとの関連で捉えた職業生活において、自らの看護専門性の向上への欲求と期待を組織との調和過程で最適に実現していくプロセス⁷⁾。本研究では、臨床看護師がライフステージとの関連で捉えた職業生活において、認定看護師、専門看護師の資格や、修士・博士の学位取得への欲求と期待を、組織との調和過程で実現していくプロセス。

クリティカルケア看護領域：潜在的あるいは実在の問題により生命危機状態にある患者を対象にした看護の分野。本研究では、救命救急センターが併設されている施設の救急部門、集中治療部門に所属する看護師が活動している分野。

IV. 研究方法

1. 調査対象

一般社団法人日本救急医学会の全国救命救急センター一覧（2012年1月現在）に記載されている施設のうち、A都道府県に所在し、かつ同意を得られた10施設に勤務するクリティカルケア看護領域に所属する看護師495人を対象とした。

2. 調査期間

2012年3月～2012年4月

3. 調査方法

留め置き郵送法による自記式質問紙調査を実施した。対象者の所属施設看護部長に文書で研究内容を説明し、協力の可否および研究協力者と対象者の照会を依頼した。同意が得られた施設の研究協力者に質問紙を郵送し対象者への配布、回収を依頼した。質問紙には、研究の要旨および倫理的配慮に関する事項を説明した文書と回収用封筒を添付し、本研究に同意の得られた対象者のみ回収することとした。質問紙は添付した回収用封筒に入れ閉封された状態で研究協力者に集められ、質問紙は研究協力者から郵送により回収した。

4. 調査内容

調査は独自に作成した質問紙を用いて実施した。項目は以下に示す通りである。

1) 対象者の属性

対象者の属性は、性別、年齢、看護師経験年数、クリティカルケア看護領域経験年数、最終学歴とした。

2) 認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識

認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識については、それぞれの役割を「よく知っている」「やや知っている」「どちらとも言えない」「あまり知らない」「全く知らない」の5段階から、関心の有無を「とても関心がある」「やや関心がある」「どちらとも言えない」「あまり関心がない」「全く関心がない」の5段階から、志望の有無を「とてもなりたい」「ややなりたい」「どちらとも言えない」「あまりなりたくない」「全くなりたくない」の5段階から、それぞれ一つのみ選択とした。

3) 認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要と考える事項

認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要と考える事項については、「家族のサポートが必要である」「自分の経済的余裕が必要である」「病院の経済的サポートが必要である」「病院の休暇取得のサポートが必要である」「所属部署の上司のサポートが必要である」「所属部署の同僚のサポートが必要である」「モデルとなる人の存在が必要である」「相談できる人が必要である」「教育機関への通いやすさが必要である」「職場で資格取得の意思表示をする場や方法の明確化が必要である」「資格取得のための情報が必要である」の11項目について「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5段階から一つのみ選択とした。

4) 認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要と考える情報源

認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要と考える情報源については、「書籍・雑誌」「インターネット」「テレビ・ラジオ」「パンフレット」「説明会（病院説明会・学校の説明会）」「授業」「有資格者（認定看護師・専門看護師）」「学位取得者（修士・博士）」「教員」「友人・知人・先輩」「その他」「特になし」の12項目から該当するものをいくつでも選択とした。

5. 分析方法

対象者の属性および認定看護師、専門看護師の資格、修士・博士の学位取得に必要と考える事項、資格あるいは学位を得るために必要な情報を得る手段について記述統計を実施した。認定看護師、専門看護師、修士・博士それぞれの役割を知っているか（以下、役割認知）については、「よく知っている」「やや知っている」を「知っている」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまり知らない」「全く知らない」を「知らない」として集計

した。認定看護師、専門看護師、修士・博士に関心の有無（以下、関心）については、「とても関心がある」「やや関心がある」を「関心がある」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまり関心がない」「まったく関心がない」を「関心がない」として集計した。認定看護師、専門看護師、修士・博士への志望の有無（以下、志望）については、「とてもなりたい」「ややなりたい」を「なりたい」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまりなりたくない」「全くなりたくない」を「なりたくない」として集計した。資格あるいは学位取得に必要と考える事項については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を「そう思う」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を「そう思わない」として集計した。

6. 信頼性と妥当性

質問紙の内容的妥当性を検討するため、調査開始前に対象者以外の看護師10名にプレテストを実施し、目的に合ったデータが得られるか検討し本調査を実施した。

7. 倫理的配慮

本研究は札幌医科大学附属病院看護部倫理委員会の承認を受け実施した。調査に際し、対象施設に文書で研究の目的、趣旨、倫理的配慮を説明し研究の可否を確認した。研究に協力を得られた施設の対象者に対し、文書で研究の目的、趣旨、研究参加の自由意思、匿名性と守秘義務の遵守、データの秘匿、データの保管方法および破棄方法、質問紙の返送をもって研究への参加に同意が得られたものとする、結果の公表方法等について説明した。

V. 結果

1. 対象者の属性

調査対象495人のうち366人より回答があり、回収率は74.0%、有効回答率100.0%であった。対象者の属性を表1に示す。

対象者の性別は、男性58人（15.9%）、女性306人（83.6%）、無回答2人（0.5%）、年齢は、20歳代100人（27.3%）、30歳代177人（48.4%）、40歳代70人（19.1%）、50歳代12人（3.3%）、60歳以上1人（0.3%）、無回答6人（1.6%）、平均年齢33.7歳（SD±8.6歳）であった。看護師経験年数は、5年未満52人（14.2%）、5年以上10年未満92人（25.1%）、10年以上15年未満88人（24.0%）、15年以上20年未満71人（19.4%）、20年以上56人（15.3%）、無回答7人（1.9%）、平均看護師経験年数11.9年（SD±7.2年）、クリティカルケア看護領域経験年数は、5年未満190人（51.9%）、5年以上10年未満109人（29.8%）、10年以上15年未満43人（11.7%）、15年以上20年未満15人（4.1%）、20年以上4人（1.1%）、無回答5人（1.4%）、平均クリティカルケア看護領域経験年数は5.38年（SD±4.7年）であった。

最終学歴は看護師養成所（3年課程）が最も多く227人

表 1 対象者の属性

項目	内訳	全体 (n=366)	
		人数	%
性別	男性	58	15.9
	女性	306	83.6
	無回答	2	0.5
年齢	平均年齢	33.7±8.6歳	
	20歳代	100	27.3
	30歳代	177	48.4
	40歳代	70	19.1
	50歳代	12	3.3
	60歳以上	1	0.3
	無回答	6	1.6
看護師経験年数	平均看護師経験年数	11.9±7.2年	
	5年未満	52	14.2
	5年以上10年未満	92	25.1
	10年以上15年未満	88	24.0
	15年以上20年未満	71	19.4
	20年以上	56	15.3
	無回答	7	1.9
クリティカルケア看護領域経験年数	平均クリティカルケア看護領域経験年数	5.38±4.7年	
	5年未満	190	51.9
	5年以上10年未満	109	29.8
	10年以上15年未満	43	11.7
	15年以上20年未満	15	4.1
	20年以上	4	1.1
	無回答	5	1.4
最終学歴	看護師養成所 (3年課程)	227	62.0
	大学	56	15.3
	看護師養成所 (2年課程)	42	11.6
	短期大学	21	5.7
	大学院	3	0.8
	その他	1	0.3
	無回答	2	0.5

A:役割認知

□無回答 □知らない
■どちらともいえない ■知っている

B:関心

□無回答 □関心がない
■どちらともいえない ■関心がある

C:資格取得志望

□無回答 □なりたくない
■どちらともいえない ■なりたい

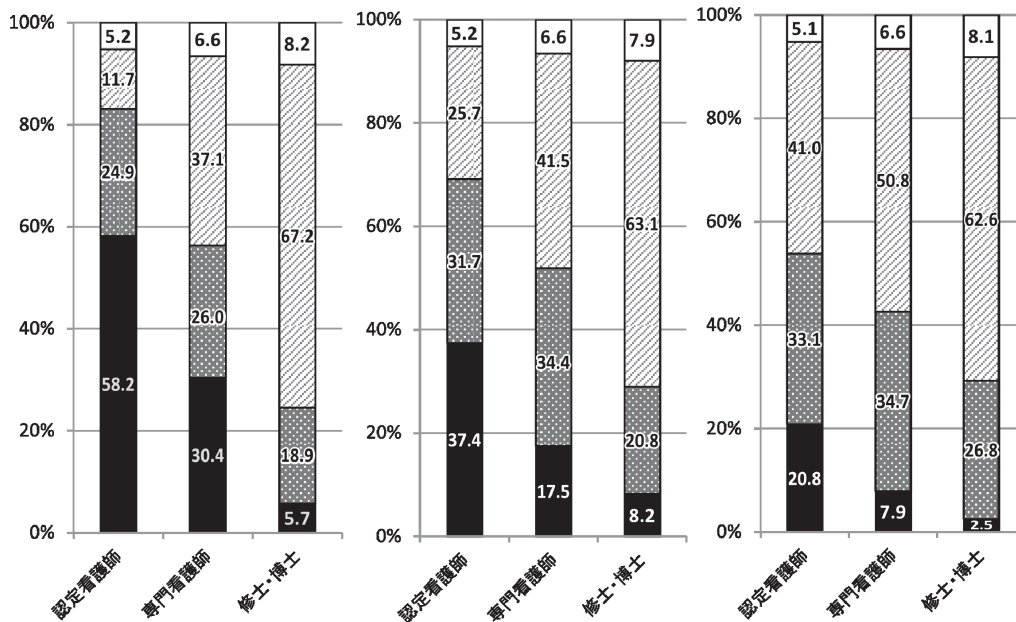


図 1 認定看護師、専門看護師、修士・博士の役割認知、関心と資格取得志望 (n=366)

(62.0%)、大学が56人(15.3%)、看護師養成所(2年課程)が42人(11.6%)、短期大学が21人(5.7%)、大学院3人(0.8%)、その他15人(4.1%)、無回答2人(0.5%)であった。

2. 認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識

認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識を図1に示す。認定看護師の役割認知については213人(58.2%)が「知っている」、43人(11.7%)が「知らない」と回答しており、認定看護師の役割認知は高かった。専門看護師の役割認知については、111名(30.4%)が「知っている」、136名(37.1%)が「知らない」と回答した。修士・博士の役割認知については21名(5.7%)が「知っている」、246名(67.2%)が「知らない」と回答した。専門看護師、修士・博士の役割認知は認定看護師比べ低く、「知らない」看護師の方が多かった。

認定看護師への関心は137人(37.4%)が「関心がある」と回答し、76人(20.8%)が「なりたい」と回答した。専門看護師への関心は64名(17.5%)が「関心がある」と回答し、29人(7.9%)が「なりたい」と回答した。修士・博士への関心は30人(8.2%)が「関心がある」と回答し、9人(2.5%)が「なりたい」と回答した。資格および学位取得への関心や志望は、いずれも認定看護師、専門看護師、修士・博士の順であり、認定看護師への関心や志望が高かった。

3. 認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学

位取得に必要な事項

クリティカルケア看護領域に従事している看護師が考える認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要な事項について、「そう思う」と回答した対象者は「資格取得のための情報」について87.4%、「家族のサポート」について85.0%、「上司のサポート」について84.7%、「相談する人の存在」について84.1%、「経済的サポート」について82.3%であり、8割以上の人々がこれらの事項について必要と考えていた。一方、「役割モデルの存在」について「そう思う」と回答した対象者は、57.4%と少なかった(図2)。

4. 資格および学位取得に必要な情報を得る手段

資格取得に必要な情報を得る手段は、「職場の有資格者」が41.8%、「インターネット」が41.5%、「書籍・雑誌」が35.8%、「職場の上司・同僚」が26.8%の順であった(図3)。

VI. 考 察

1. 認定看護師・専門看護師・修士・博士に対する役割認知

対象者の認定看護師、専門看護師への役割認知は、約6割が役割を知っていた認定看護師に対し専門看護師の役割

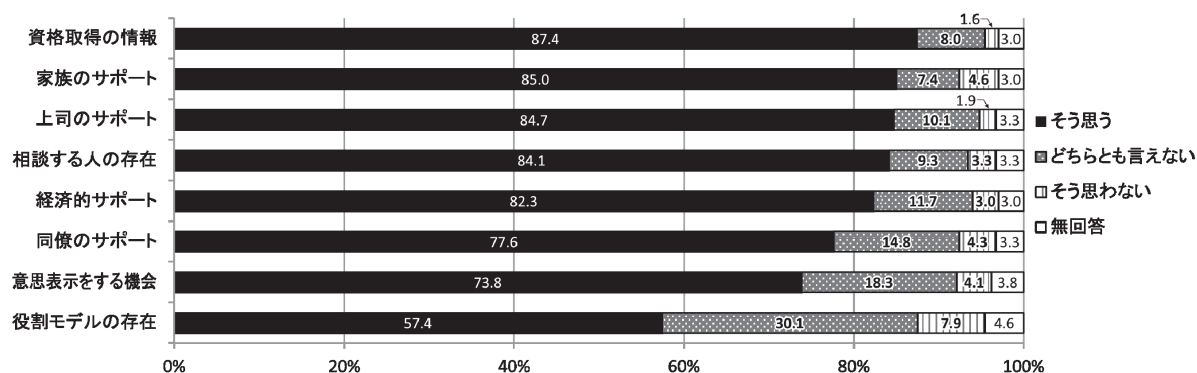


図2 認定看護師、専門看護師の資格、修士・博士の学位取得に必要なと考える事項 (n=366)

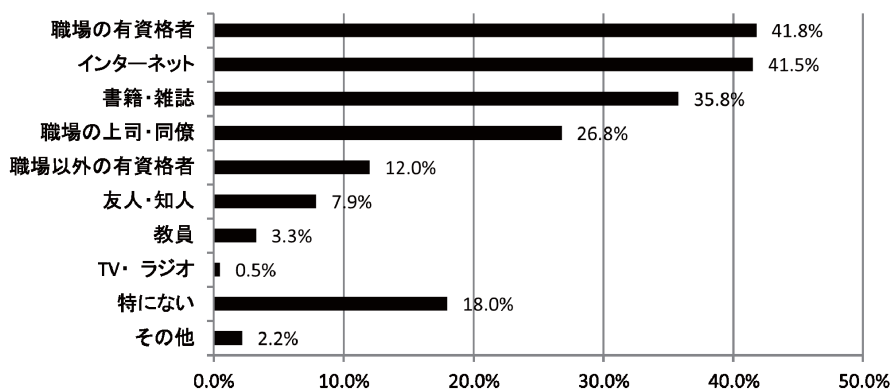


図3 資格取得に必要な情報を得る手段(複数回答) (n=366)

認知は3割程度であった。両資格とも公益社団法人日本看護協会が認定する資格であり、役割の定義が明確にされているにも関わらず役割認知に相違があった。その背景には、認定者数の違いが関係していると考えられる。今回調査したA都道府県の認定看護師数は600人以上、専門看護師数は30人以上（2013年11月現在）であり、専門看護師より認定看護師の方が多くの病院で就業していると予測される。認定看護師数の多さや認定分野の幅広さからいろいろな場面で複数の認定看護師に接する機会があり、協働する中で認定看護師の役割理解につながっていると考えられる。一方、専門看護師は認定看護師に比べ絶対数が少なく、役割理解につながるような協働する場が少ないといえる。臨床看護師の9割以上が専門看護師の必要性を認めており専門看護師への強い期待がある⁸⁾とされているが、専門看護師の役割を理解していなければその必要性の判断は難しい。教育的機能や実践モデルとしての役割を持ち合わせている専門看護師は、役割認知を高める働きかけをしていくことが重要な課題と考えられた。

修士・博士については、ほとんどが役割を理解していなかった。多くの対象者の最終学歴が3年課程の看護師養成所であることから、修士・博士の学位を取得する大学院に関する情報が少ないことが考えられる。また、専門看護師同様に絶対数が少なく、身近な存在ではないことに加え、大学院を修了した臨床看護師に対する役割の定義はなく、修士・博士に関心がなければ役割を理解するのは困難であると思われた。さらに、各医療機関も大学院を修了した看護師に対して、明確なポジションを示していないことや学歴を公表して活動する必要性もないことも要因と考えられる。看護系大学院は増加傾向にあり、2010年では127機関と15年前に比べ10倍以上となっている。このような社会的背景を考えると、大学院を修了した看護師は今後も増えていくと予想される。しかし現状では、大学院での学びが生かされた臨床実践が施設内外で公表されたり評価される機会が多くなく、それと同時に責任ある役割を課せられたり、学歴が十分に評価された待遇を受けられることはまだ少ない。しかし、看護管理者の中には、「看護の質の向上」や「職場の活性化」、「教育、研究、指導者に活用」を理由に大学院修了者を採用したいと考えていることが明らかになっており⁹⁾、大学院を修了した看護師に対する役割期待は大きいと考えられる。複雑な現象を孕むクリティカルケア看護の臨床場面においては、実践・教育・研究者の三つの視点から柔軟な発想で常により良いケアを追求する必要があるからこそ、認定看護師や専門看護師のみならず、修士・博士課程を修了した臨床看護師も重要な存在であると考えられる。このことから、看護の質の向上に向けて、大学院を修了した看護師の役割が理解されるような情報が必要であり、組織として大学院を修了した看護師の効果的な活用について検討を行い、臨床現場で協働できる環境づくりが必要と考えられる。

2. 認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する関心および志望

修士・博士に比べ認定看護師や専門看護師に対しての関心や志望が高かった。先行文献でキャリア発達のニーズとして専門職志向が強いこと¹⁰⁾が明らかにされているが、本研究の結果からも専門性の高い資格への関心や志望が高いことが明らかになった。

その中でも認定看護師に対する関心や志望が最も高く、キャリアアップの手段として認定看護師を意識している看護師が多いといえる。認定看護師教育課程には21学科（2013年10月）があり、専門性を追求するキャリア発達を考える上で、選択肢が広いことや教育期間の短さ、専門性の高さなどから選択しやすい資格の一つと考えられる。また、クリティカルケア看護領域に関連する学科も多く、その中から個々人の関心に合わせた選択をできることも、キャリアアップするための資格として、認定看護師に関心や志望が多いものと考えられた。これに対して、専門看護師や修士・博士への関心や志望は、認定看護師に比べて低いものであった。臨床看護師の大学院への進学ニーズに関する調査では、臨床看護師の約25%が大学院進学の希望を持っていることが明らかになっているが⁹⁾ ¹¹⁾、今回の調査ではそれよりも低く1割にも達していない。専門看護師取得や修士・博士の学位の取得のためには大学院進学が必要であり、今回の調査の対象者の最終学歴からでは乗り越えるべき事柄が多いと捉えていることが推測される。また、看護師全体の中で大卒者の割合が低いことは、キャリア構築の場として大学院を選択する看護師も少なく、同時に大卒者も職場の理解や支援が受けられないために進学を諦めている看護師も少なからず存在する¹²⁾といわれている。以上より、大学院を修了した看護師の臨床における役割の明確化、受け入れ体制の整備の必要性が示唆された。

今回調査対象となったクリティカルケア看護領域の看護師のキャリア開発の関心や志望は、新たな学位取得よりも専門的実践の追求を重視したキャリア開発を考えている傾向があるといえる。その背景には、大卒者が少ない事や専門看護師や修士・博士の役割認知の低さが、関心や志望に影響していると考えられる。

3. 認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要な事項

資格および学位取得に必要なサポートとして、「経済的余裕」、「病院の休暇取得のサポート」、「教育機関への通いやすさ」、「資格取得のための情報」が必要と考える対象者が多かった。先行研究においてキャリア発達のためには経済的自己投資¹³⁾や時間的余裕¹⁴⁾の必要性が指摘されているが、本調査においても経済面や休暇を含む時間の保証のほか、学習しやすい環境、有益な情報がキャリア発達に必要な事項としてあげられていた。

「職場での意思表示の機会」、「役割モデルの存在」は、他の項目に比べ必要な事項とされてはいなかった。しかし、

資格の取得について「職場での意思表示の機会」を必要と考えている対象者が約7割も存在することから、資格取得に関心や志望がある臨床看護師が職場で意思表示をすることは重要だと捉えていることが推測できる。キャリア発達には組織的支援が必要であり、上司と部下の面接の果たす役割は大きいことから¹⁵⁾、定期的に意思表示ができる職場環境を作り、資格取得の意欲を反映させる組織マネジメントが必要だと考えられる。

4. 資格および学位取得に必要な情報を得る手段

資格および学位取得に必要な情報を得る手段について、41.8%の者が「職場の有資格者」と回答し、もっとも多かった。中堅看護師が今後のキャリアの方向性を考えるきっかけのひとつとして、「身近で活動している認定看護師や専門看護師に触発されたことがある。」と述べた先行研究¹⁶⁾もあり、本調査の結果と一致していた。また、資格および学位取得に必要な情報を得る手段として、「書籍・雑誌」よりも「インターネット」を用いると回答した対象者が多かったが、各大学院や認定看護師養成施設が開設しているホームページが多いこと、また多くの看護師にとって、インターネットが情報を得る際の身近な方法となっている状況が反映されている結果だと考えられる。また、認定看護師、専門看護師の資格および修士・博士の学位取得に必要な事項として、「経済的余裕」、「病院の休暇取得のサポート」や「教育機関への通いやすさ」といった事柄が重要との結果であった。資格取得志望者はこれらの必要なサポートを「職場の有資格者」という身近な経験者に尋ねることによって、具体的に進学中の生活を予想し、インターネットで得た情報と併せて学業と仕事の両立が可能になるか、検討していると予想される。また、3割弱の対象者が資格取得に必要な情報を得る手段として、「職場の上司・同僚」をあげていた。前述の「職場の有資格者」が存在しない施設もある現状から、資格取得志望者は身近でかつ職場の規則・制度に詳しい「職場の上司・同僚」を頼りにし、情報収集をしているものと予想される。以上から、多くは多忙な臨床状況で勤務している看護師が、身近な情報源から資格取得に必要な情報を簡単に知ることができ、キャリア発達について考えられるような環境づくりが大切であると考えられる。そのひとつとして、有資格者による看護管理者への役割認知を高める地道な活動も必要と考えられる。

以上、本調査の結果から本研究の対象者は、特に認定看護師に対する役割認知が高く、修士・博士に比べ認定看護師や専門看護師に対する関心や志望が高かった。また、資格および学位取得に必要なサポートとして「経済的余裕」、「病院の休暇取得のサポート」、「教育機関への通いやすさ」、「資格取得のための情報」が必要であると考え、「職場の有資格者」や「インターネット」といった身近な情報源を用いていることが明らかになった。これらの結果から、キャリア発達に必要なサポートとしては、それぞれの資格や学

位に関する役割認知を高める働きかけをしていくこと、通学中の経済面や休暇を含む時間の保証をし、学習しやすい環境や有益な情報の提供が重要であるとの示唆を得た。

研究の限界として、今回の調査は全都道府県のクリティカルケア看護領域に勤務する看護師を対象に行っているため、結果は地域特性が影響している可能性がある。また、認定看護師、専門看護師や修士・博士を取得した看護師の各施設での人数、関わりの頻度については調査しておらず、これらの項目が役割認知や関心に影響を与えている可能性もある。今後、調査範囲の拡大や縦断的調査を重ねて一般化できるよう検討を継続していきたい。

謝 辞

本研究にご協力いただきました施設の看護管理責任者の皆様、クリティカルケア看護領域に勤務する臨床看護師の皆様にご心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 文部科学省高等教育局医学教育課：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告書. 2011年3月11日報告.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf (2013-11-13)
- 2) 太田紘子, 高田亜樹子, 津田佳奈：3交代勤務看護職のストレス実態調査～病棟看護師とICU看護師との比較～. 磐田市立総合病院誌5(1):81-85, 2003
- 3) 宮沢玲子, 茂呂悦子：クリティカルケア領域で働く新卒看護師が1年間で経験する困難と教育的関わりの検討. 日本看護学会論文集 看護管理40:156-158, 2010
- 4) 本村良美, 八代利香：看護師のバーンアウトに関連する要因. 日職災医誌58:120-127, 2010
- 5) 河村葉子：救急医療従事者におけるストレス. エマージェンシー・ナーシング15(11):970-975, 2002
- 6) 青島祐子：女性のキャリアデザイン—働き方、生き方の選択. 東京, 学分社, 2011, p223-225
- 7) 勝原裕美子：看護師のキャリア論. 東京, ライフサポート社, 2007, p5
- 8) 卯川久美, 細田泰子, 星和美：専門・関心領域を明確にしている中堅看護師のキャリアデザインとその環境要因. 大阪府立大学看護学部紀要17(1):1-12, 2011
- 9) 平井さよ子, 海老真由美, 山田聡子ほか：看護職の大学院への進学ニーズに関する調査. 愛知県立看護大学紀要18:33-40, 2002
- 10) 平井さよ子, 海老真由美, 高橋澄子ほか：I市立病院の看護職のキャリア開発に関するニーズと職務満足度に関する調査. 愛知県立看護大学紀要7:53-60, 2001

- 11) 江口秀子, 吾妻知美: 看護職の大学院への進学ニーズに関する調査—A大学の実習関連施設に勤務する看護職を対象に—. 甲南女子大学研究紀要5 看護学・リハビリテーション学編: 203-210, 2011
- 12) 内田宏美, 津本優子, 小林裕太ほか: 島根県内の看護師のキャリア・ニーズと修士課程看護学専攻に対する認識. 島根大学医学部紀要31: 59-64, 2008
- 13) 柿原加代子, 大野晶子, 東野督子ほか: 継続勤務している看護師のキャリアアップに関する認識. 日本赤十字豊田看護大学紀要7(1): 153-159, 2012
- 14) 山川信子: 看護職のキャリア開発について—ワーク・ライフ・バランスとの関連性から支援のあり方を検討する—. 第42回日本看護学会論文集 (看護倫理): 183-186, 2012
- 15) 平井さよ子: 看護職のキャリア開発を支えるために. 看護56(1): 40-43, 2004
- 16) 浅井美千代, 三枝香代子, 白鳥孝子ほか: 3年・2年課程卒の中堅看護師が描く今後のキャリアの方向性とキャリア開発に求める支援. 千葉県立保健医療大学紀要3(1): 53-59, 2012